

プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

2010年10月4日号 (Vol.11)



主なニュース

1. ウガンダ北部との技術交換
2. 本邦研修参加者による報告会
3. プロジェクト進捗
 - 3.1 パイロットプロジェクト
 - 3.2 農道・カルバート改修
4. JICA 新人職員からのプロジェクト報告
5. コラム：シエラのチカラ：JAF はいりません
6. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 第9話



シエラレオネ



プロジェクト対象県

1. ニュース速報：ウガンダ北部との技術交換

長い内戦の経験を持つウガンダ北部とシエラレオネ。それぞれ内戦の経緯は違う。平和が訪れても課題は多い。復興から開発への段階や道も異なります。しかし、地域開発のために地方行政と住民と協働して事業を進めている双方から学ぶことは多いはずです。

今回実施した技術交換はそんな発想から生まれ、ウガンダ北部フィールドオフィスの協力を得て実現することが出来ました。無事戻ってきた参加者を中心に今後、ウガンダとの技術交換の学びを共有すべく、10月に本省主催によるフォーラムを開催し、関係者との学びの機会を設定する予定です。

今回は、技術協力にシエラレオネ側から参加した吉野専門家からの報告をお伝えします。

ウガンダ技術交換プログラムを終えて 吉野専門家（業務調整・研修計画）

ウガンダ グルフィールド事務所の協力を得て、9月19日（日）～9月24日（金）の4泊6日の日程で、当プロジェクトカウンターパート7名とともに技術交換プログラムの為ウガンダを訪問し、現地の活動視察、意見交換を行ってまいりました。

当プロジェクトカウンターパートからの参加者は、内務・地方自治地域開発省副大臣（CDCDプロジェクトダイレクター）、同省次官（CDCDプロジェクト副ダイレクター）、同省次官補、ポートロコ県議会副議長、同県議会副主席行政官、カンビア県議会副議長、同県議会副主席行政官の7名。

9月20日（月）

朝方にウガンダのエンテベ空港に到着後、レンタカーにて首都カンパラ市内のホテルへ移動し午後からの表敬の身支度。つかの間の休息後、午後より地方自治省へ表敬。ウガンダとシエラレオネの近年の歴史的背景が類似していることから話が盛り上がり、各国の地方分権化の過程における事例やこれからの課題等々、地方自治大臣と1時間半及ぶ熱い演説合戦を行われました。



ウガンダ地方自治大臣(左)とシエラレオネ内務地方自治地域開発省副大臣(右)

大臣への表敬後は同省事務次官との意見交換を行い、現在のシエラレオネ県議会の体制についての問題点とその改善について貴重なアドバイスをいただくことができました。

9月21日(火)

午前中にカンパラから北に向かって4時間程度の道のりを移動し、グルへ。シエラレオネの首都フリータウンからカンビア県までもほぼ4時間(雨季は5~6時間)。しかしながら、カンパラ~グルの距離は360キロメートルとフリータウン~カンビア間のほぼ倍。アスファルト舗装された道が途切れることなく続いている風景に、渉参加者も改めて道路整備の大切さを認識すると共にウガンダの開発の進捗に感心しておりました。

カンパラに着くと直ちに意見交換会に参加。シエラレオネ参加者からは、シエラレオネの地方分権の進捗・課題、県議会の活動成果・課題、JICA CDCD プロジェクトの紹介を発表しました。出発一週間前に事前打合せを行った甲斐もあり、シエラ側発表者はタイムスケジュール通りに発表を行い、10分という限られた時間の中で有効なプレゼンテーションを行うことができました。各発表者の発表内容に対して、ウガンダ政府側参加者からも熱心な質問があり、活発な意見交換会となりました。

9月22日(水)

朝から昼過ぎまでは、グルから1時間半ほど離れたJICAのプロジェクトサイトを視察。その後はグルへ戻り、ウガンダ政府側のプロジェクトサイトを視察。JICA、ウガンダ政府側共に、県職員や県病院職員住宅の整備を行っており、地方勤務の職員の住環境整備により安定した行政サービスの提供を行うことを目指しているとのことでした。



給水ポンプ用太陽光発電パネル(Pabboプロジェクトサイト)

中でも参加者一同が関心を示していたのは、JICAのPabboプロジェクトサイトの給水システム。無電化の村で太陽光パネルを利用した給電方式でポンプを動かし水を汲み上げ、県事務所、県職員住宅、周辺コミュニティへの給水を行うシステムの為、「同じく無電化で水問題を抱えるコミュニティを多く持つポートロコ/ポートロコ県の両県でも、このシステムは活用できる！」とみな鼻息を荒げていました。

9月23日(木)

午前中にラップアップミーティングを行い、午後はカンパラを經由エンテベへ移動。カンパラにて2時間程度ショッピングを楽しんだ後空港へ向かい、日をまたいだ24日真夜中のフライトにてウガンダを後にしました。



プログラム最終日に参加者全員で記念写真

ハードなスケジュールの中、参加者一同精力的に意見交換や視察

を行い、ウガンダ政府、シエラレオネ政府共に経験・情報の共有ができた大変有意義な技術交換プログラムとなりました。

このプログラムで各参加者が見聞きしたことは、本省・県議会関係者を招いて、10月中にフォーラムを開き、情報共有を行う予定です。本省副大臣との協議では、その後、当プロジェクトの全対象地域（シエラレオネ北部州）を対象として、一回り大規模なフォーラムを北部州都のマケニで開催するアイデアも出ており、可能な限りカウンターパートのイニシアティブをサポートしたいと考えております。

CDCDプロジェクトでは今後もアフリカ諸国同士の人的交流・経験および技術交換を通じ、お互いの知見を高めるプログラムを積極的に企画・活用し、開発のアイデアをカウンターパートと共に学んでゆきたいと考えております。

2. ニュース速報：ポートロコ県議会開発計画官による本邦研修報告会 –平林プロジェクトリーダー–

9月30日に、ポートロコ県議会にて、本邦研修「地域開発計画・管理（研修期間：2010年7月24日～8月10日まで）」に参加したポートロコ県議会職員（開発計画官）による研修報告会が行われました。JICA札幌国際センターを中心に研修を受けてきた開発計画官は本プロジェクトでも、行政と住民をつないで地域開発計画を策定し、実施する要の職についています。



パワーポイントを使って発表する県職員。

この報告会はひと言でいうと非常に素晴らしい報告会でした。まず、この報告会がポートロコ県議会のイニシアティブで開催されたことです。多くの参加者が招待されていました。参加者はポートロコ県議会職員、県議会議員、県保健事務所など関係事務所代表者にJICA関係者。この動員力はポートロコ県議会議長のリーダーシップと、常日頃から培われているチームワークの賜物に違いありません。多くの関係者をつなぐ県議会としての機能がここでも十分に発揮されている、と実感しました。



発表に聞き入る職員たち。

次に感心したのは、発表の内容をパワーポイントにきちんと整理し、発表の仕方も工夫されていたことです。日本での研修中から、発表資料の作成の仕方を学び、実践していました。

そして報告の内容です。日本での学びの整理、学びに基づいた帰国後の行動計画などわかりやすく説明していました。講義、視察ひとつひとつに丁寧に触れていました。日本側の受け入れの決めの細かさには感銘を受けているようでした。行動計画には廃棄物処理を上げていました。住民からは要望があがりにくい分野ですが、社会・経済基盤の整備の過程で、欠かせない視点です。今後、彼の行動計画が県議会予算に盛り込まれることへの努力、また外部から予算を取り付けて実施するプロセスを可能な限りフォローし、支援していく所存です。これも行政のサービスデリバリー強化の一環です。

3. ニュース：プロジェクト進捗状況

2004年に制定された地方自治法。内戦後急いで作られたものでありますが、同法に基づいて、近年地方行政強化の動きは確実に前進しています。地方行政の人員増員、まだ十分な規模とはいえませんが予算執行の精度向上、予算策定の時期の適正化など確実に改善しています。

本プロジェクトではこうした動きの中で、人と限られた予算をいかにして、効果的・効率的に地方行政が住民に届けるか。つまり地方行政のサービスデリバリーの強化と同サービスを補完するための住民側の底上げを働きかけます。そして現場の経験に基づき成功事例を積み上げると共に、課題・学びを地方自治法改訂への提言としてまとめて本省に働きかけるものです。

パイロットプロジェクトは、小規模の社会・経済インフラの改修事業を通じて、主に県議会職員が住民の声を聞き、県議会の見解を建設的に伝え双方向による計画策定能力の向上、県議会の事業管理能力の向上を図ります。

一方、上記事業を通じて、住民代表であるワード委員会の事業計画から事業管理の能力を見極めます。対象地域の地理的、社会・経済的な特性を把握し、シエラレオネのモデルになる事業計画・管理体制を構築します。我々専門家チームは現地の社会・経済状況を学ぶ立場でもあります。

2010年度実施予定の主な事業		
主な事業	予定	進捗状況
コミュニティ開発：パイロットプロジェクトおよびキャパシティアセスメント	32件(社会・経済基盤整備) カンビア県25件、ポートロコ県7件	フェーズ1&2(11件): 7件完了, 4件実施中 フェーズ3&4(21件): 計画策定12件完了
フィーダー道路・カルバート改修工事	12月工事契約予定	サイト選定中
ウガンダ北部プロジェクトとの技術交換	9月19～24日	実施済み

3.1 コミュニティ開発プログラム：パイロットプロジェクト 久保嶋専門家（コミュニティ開発）

各ワードでのパイロットプロジェクト策定ワークショップを開始してから、早いもので1ヶ月が過ぎようとしています。これまでのところ、ポートロコ県では予定されていた全4ワードでのワークショップを終了し、選出されたパイロットプロジェクト案の実施可能性調査をこれから行います。

カンビア県においては全17ワードのうち、これまでのところ8ワードでワークショップを終えました。フェーズ1・2と同様、学校改修や井戸の改修が選出されているほか、経験したことのない簡易裁判所の補修や、収穫した穀物の乾燥床の建設なども選出されています。



住民代表者に対しガイダンスを行う県職員

フェーズ1・2においては、これらワークショップの日程の調整に骨を折りました。例えば担当していた開発計画担当官が当日になって急に、出張が入ったなどでワークショップを延期せざるをえない状況が多々ありました。気の毒なのは現場で苦勞して参加者を動員していたワード委員会のメンバーたちでした。

このような状況を避けるため、県議会職員の体制は格段に進歩していると感じています。例えば、カンビア県では様々なドナーから引っ張りだこである開発計画官をバックアップするために、彼も含めて4人の県議会職員がワークショップ実施の担当に任命されています。このため開発計画担当官に急な出張が入った際も、ワークショップを延期してワード委員会メンバーに二度手間をかけさせることなく、予定通りに開催することが出来るようになってきました。

しかしながら問題はまだまだ残っています。例えば、ワークショップ実施担当に任命された他の職員は、モニタリング・評価官を除いて、これまでワークショップファシリテーションの研修を受けてきませんでした。そのため、まずはプロジェクト側で手本を示し、徐々に彼等のみでも出来るように役割を移行していく必要があります。これが完了すれば、県議会の戦力は一挙に増強されます。住民からニーズを引き出しプロジェクト案にまとめることのできる職員がこれまでの2人から4人に増えるのです。また開発計画担当官が全体像を把握できるように彼ら4人の中での情報の共有・報告体制も強化していく必要があります。彼ら4人が定期的な打ち合わせを開催できるように、こちらからも働きかけていく予定です。



集会で発言する女性

3.2 農道・カルバート改修工事 ー道は始まったばかりー 宿谷専門家（調達制度・道路計画）

本プロジェクト対象地域のカンビア県、ポートロコ県の道路網の改良とカウンターパートである県議会職員のその実施能力の向上のために始まったフィーダー道路・カルバート改修工事プログラム。

フィーダー道路とは、基幹道路からコミュニティを結ぶ住民にとって重要な道路です。今年10月から来年5月までの乾季の間に、地元施工業者に工事を委託し、道路改修を実施する。改修までのステップは大まかに、(1)議会による改修道路候補の選定（複数）、(2)現地調査、(3)改修道路の優先順位付け、(4)設計・工事費算定、(5)施工業者の決定（入札）、(6)改修工事の実施、となっています。



現地調査をするエンジニアたち：シエラレオネの未来の道は彼らが創る！？

調査開始からはほぼ1カ月経ちました。現在は、議会により推薦されたカンビア県7道路、ポートロコ県2道路の現地調査を終え、改修する道路の優先順位付けするステップにきています。プロジェクトでは、予算に限りがあるため、すべての道路を改修することはできません。議会と相談し、次の観点から優先順位を付けることとなりました。(1)地域の発展への寄与度（学校、クリニックなどの公共施設の数、交通量）、(2)主要道路への接続性、(3)裨益者の数。これらの項目で点数化し、改修の優先度を決めます。この作業が一番難しく苦しい。どこを先に実施するか、どうやったら多くの住民に裨益できるか、しばしば議論となります。ポートロコ県はすんなり決まったものの、カンビア県はこちらの意図が伝わらず、会



橋もない道：人、バイクは濡れながら通る。この先にも多くの住民が住んでいる。

議は紛糾しました。解決には議論を重ねるしかありません。

フィーダー道路整備という道は始まったばかり。県議会とともにこれからもプロジェクトのゴールまでの道を一步一步進んでいきます。

ニュース：JICA 新人職員からの CDCD プロジェクト報告 ー第 2 回ー

本プロジェクトでは、JICA 新人職員研修の一環として、9月7日から11日まで福原さん、9月13日から18日まで苗村さんに業務に携わっていただきました。お二人それぞれから観た本プロジェクトを続編でお伝えします。2回目の今回は苗村さんと福原さん（2回目）両人からの報告です。

農道・カルバート改修工事はシエラレオネのホットイシューのひとつ ー苗村職員ー

CDCD プロジェクトの2本柱の一つ、農道・カルバートの改修プログラム工事対象候補地の現場踏査に同行しました。先般参加したシエラレオネのドナー会合で、複数省庁の大臣が農道の改修・舗装の必要性について言及していたのですが、実際にプロジェクトでの改修候補地は、凸凹や大きな窪みが続き、通行が困難な場所が多々あります。



現場で指導する宿谷専門家（調達制度・道路計画）

今回、県議会が選定した候補地のうち3つのサイト現場を視察しましたが、どのサイトも彼らで取決めたクライテリアに沿って、よく選定されているとの印象を受けました。他方、情報交換のためポートロコ県道路局を訪問した際、情報の整備、蓄積がされておらず、一つの情報を得るのに多くの時間を要した場面がありました。さらに、必要な情報のほとんどは中央にしかないとのこと。アフリカ流のアバウトな勘定方法で統計なども十分に整理されていない状況の下、時間はかかりますがカウンターパートのスキルアップに寄与できる要素は、事の大小関わらず多分にあると思いました。



冠水した道路は四駆の車両でも通行が難しい。道路にたまった水で遊ぶ子どもたちもいる。

また、別の日に行われたパイロットプロジェクトの立案ワークショップでは、はからずも8つの候補からカルバートの改修が採択されました。シエラレオネでは今、農道・カルバート改修はホットイシューの一つのようです。

始動したばかりのこのプログラム。能力向上という目に見えにくい技術協力が、インフラをツールに目に見える形で築き上げられていきます。今後の設計、調達や施工監理などソフト面の技術協力、人材育成を通して県議会がどう変わっていくのか、楽しみです。

パイロットプロジェクト 学校引渡し式出席 福原職員

9月9日、第1フェーズで行われた学校補修事業の引渡し式が開催されました。引渡し式には村の代表30名ほどが参加しました。式は招待客の紹介（村の代表、県議会職員、JICA関係者）から始まり、地元自治組織であるワード委員会代表者の挨拶へと続きます。

式の最中、どこからともなく女性や子どもが次々に集まってきました。地区の代表からは県議会職員とJICAに対するお礼が述べられました。この頃には集まった女性や子どもの数は50人近くに達していました。

最後にJICAからの挨拶があり、「この事業が県議会と村との協力による成功事例として、政府にも認識されるよう働きかけていく」と述べると、周囲の女性や子どもがその喜びを歌とダンスで表現してくれました。

事業はジェンダーバランスも考慮しながら進められたとはいえ、事業実施主体である自治会メンバーの中で女性は2割程度。この歌とダンスを披露してくれた女性たちが事業に積極的に参加していたとは思えません。しかしながらこの事業は女性たちにも喜んでもらえた。本当にこの事業の成功を実感した瞬間でありました。最後に、閉会時にはJICAへのお礼として山羊が一頭贈呈されました。



引渡し式。中央にいるのが福原さん



学校補修工事の完了を喜ぶ女性や子どもたち。

コラム—シエラのチカラ：「JAFはいりません」 —宿谷専門家—

少しばかり運転の荒い、プロジェクト車のジボ運転手。この日は、現地調査で、水田の真ん中の畝上の道路を通行した。道幅2メートル強。車がぎりぎり通れる幅だ。

“行きは良い良い帰りは怖い。。。” 道路終点まで到着し、さて帰ろうとUターンして100メートル戻ったところで、ずるずると道路の淵が崩れ、田んぼへ車が脱輪してしまっ。畝高さ50センチ程度。エンジンをふかしたら余計はまってしまった。さて、どうしたものか。。。もう1台のJICA車を呼んだものの、牽引できる余地がない。JAF (Japan

Automobile Federation) ならぬSAFがあるわけもない。

ここで、調査に同行した議員が村人を呼んできた。総勢10名程度。人力で車を浮かそうとするが、足場が悪く、びくともしない。10分後、さらに援軍が到着し、総勢20名程度となった。何とかなるかも。ただ、皆がバラバラに力を入れるため、やはり動かない。

ここで、見兼ねて少し助言を。「誰かが音頭をとって、いっせいに力を入れたら」。「ソーソレ、セイ、セイ、セイ！」「ソーソレ、セイ、セイ、セイ！」、



傾いた車を一生懸命引き上げる若者たち。当初は野次馬ばかりでしたが。



見事、畝上に復帰した車両。次からは今まで以上に安全運転をお願いします。

エンジニアが音頭をとりだしたら、車が動き出した。そうすると、不思議なことに、自然と役割分担ができる。下から上に押し込む者、上から引っ張る者、邪魔な草をよける者、車輪の下に板を差し込む者、力を合わせた。そして、15分後、見事に車は畝上に復帰した。

力もちのシエラ人。コツをつかんで、協力すれば、ものすごい力を発揮するのだ。助かりました、ありがとう。シエラの子カラここにあり！ でも、ジボ運転手は協力者にいくらか払っていました。

コラム：「ごっつあんです！ シエラレオネ 第9話」－シエラ人に愛される cafe！－

フリータウンの市内に多くのシエラレオネ人に愛される素敵なカフェがありますよ。その名も Café du la Rose。名前はフランス語だけれど、メニューはシエラレオネ料理と炭火で焼いた魚・肉料理が中心。ちょっと洗練された地元料理屋さんという感じ。



2階のオープンカフェ。ランチタイムは地元の人中心ににぎわう。

2階建てのお店で、特に2階はオープンカフェ。近くにある海から浜風がはいってくる。お店の周辺には銀行、商店が多い。ビジネスレディ・ビジネスマンがスーツ姿で入ってくることもよくある。客の多くはシエラレオネの人たち。

仕事で町中に昼過ぎまでいると、フラッと立ち寄りたくなるお店。お勧めメニューは、魚のグリルとチキンのグリル。これに「ペペ」と呼ばれる唐辛子をつけると、食は益々進む。



*9月20日号 訂正

前号でお伝えしましたサバ。漁師さんからは「サバ」と言われて購入したものでしたが、写真を見た読者からの投稿で、例の魚は「サワラ」であることが判明しました。広辞苑によるとサワラもサバ科の魚だそうです。さすが魚を食する日本。分類がきちんとされています。シエラレオネでは「サバ」も「サバみたいな魚」も堂々と「サバ！」と呼ばれているのだと思います。ご指摘に感謝申し上げます。

ちなみにサワラは英語で Sierra といいます。これは単なる偶然でしょうか。Sierra Leone はポルトガル語で「ライオンの山」が語源といわれていますが、サワラも Sierra。シエラ(Sierra)はサワラ (Sierra) の宝庫かもしれませぬ。
(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：内務地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト概要

協力期間：2009年11月～2014年11月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：内務地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整、宿谷調達制度・道路計画専門家、久保嶋コミュニティ開発専門家、2010年9月実績